

Super Science English Expression I Country Project

実施内容：各グループで担当する国について、異なる*4つのカテゴリーを設定し、各自テーマに沿って調べ学習をしてポスターを製作。ポスターセッションの形式で発表する。

実施形態：4人1グループ×10グループ×6クラス

対象の国は60か国で、生徒に馴染み深い国から、聞いたことのないような国まで、地域を問わず多岐に渡る。

実施時期：7月下旬（3時間）～8月下旬（4時間：うち2時間はポスターセッション）

*4つのカテゴリー：General Information（一般的な情報：人口、首都など）と Science（科学技術、自然、建築物、動植物など）は必須カテゴリーとし、その他2つは各班で決定する。

60班の中で一番評価が高かった1年4組4班のプレゼンの様子とポスター



国名：Singapore (シンガポール)

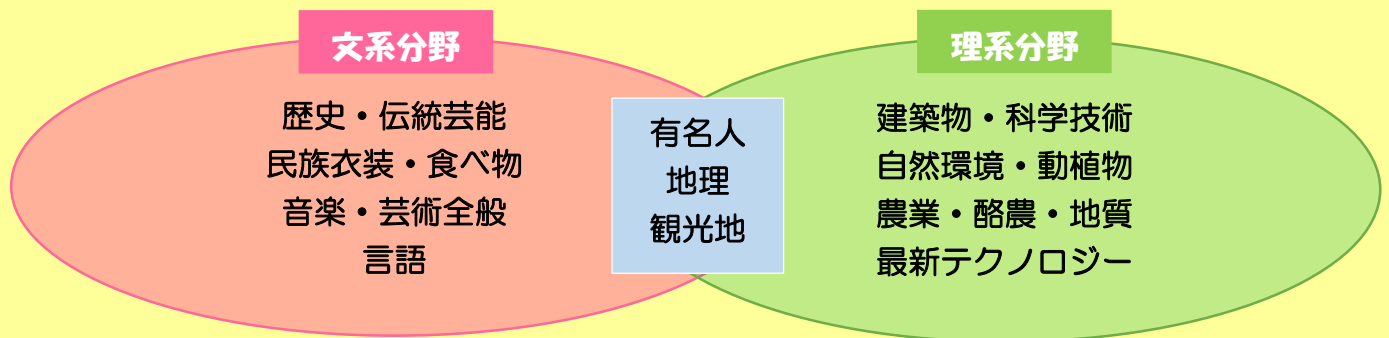
4つのカテゴリー：

- General Information (一般情報)
- Sightseeing (観光)
- Plants and Animals (動植物)
- Food (食べ物)



＜文理融合を目指した Country Project＞

生徒が選んだ主なカテゴリー



生徒達は、文理を融合した多種多様なカテゴリーの中から、4つのテーマを選び、各班で協力して担当の国をリサーチし、発表することができた。また、あまり馴染みのない国を担当することで、新たな発見がたくさんあったといえる。SS 英語表現Ⅰという授業であっても、文理関係なくトピックを選べるようし、発表分野が重ならないようにすることができた。結果的に多くの分野の発表を聞くことができ、聞き手側も楽しめるプレゼントになった。

＜ポスターセッションを終えて＞

今回のポスタープレゼンテーションは、各班質疑応答を含めて7分間で行った。6月に実施した大沼環境調査事前学習では、質疑応答時に聞き手の生徒からの質問があまりなかったが、今回は生徒たちだけでインタラクションをすることができ、7分間やりとりを続けることができたグループが多かった。プレゼンする側も、ただ調べたことを発表するだけではなく、聞き手に質問をしたり、クイズを用いて聞き手の関心を高めるなど、随所に工夫が見られた。ポスターの完成度も高く、各自の努力が相乗効果となって質の高いポスターセッションになったといえる。また、9月末に控えるSSH 探究の大沼環境調査についてのポスターセッションの際に、今回の経験を生かすことができるのではないだろうか。

今後の英語のプレゼンテーションでは、調べ学習の際の参考文献に「海外のサイト」を1つは必須にするなどの条件を加えて、更に質の高いプレゼンができるようにさせたい。

＜生徒のアンケート結果より（教科横断型授業に関連する意見のみ抜粋）＞

- ・世界史で学んだ歴史の知識を生かして、プレゼンをすることができた。
- ・生物で学んだ動植物について、調べ学習を進めて、プレゼンすることができた。
- ・世界史の資料集に載っていた建造物について詳しく調べ、英語で伝えることができた。
- ・世界史の教科書に載っていた文字について意味や書き方を深く学ぶことができた。
- ・英語の授業で学習した民族衣装について深く調べることができた。
- ・英語の「世界の食べ物」で習った料理について調べ、説明することができた。

「各教科で学習したことで興味を持ったことを、更に調べて英語で発表する」というサイクルを活用できている生徒が、数は多くはないが見受けられる。今後英語の授業で様々なトピックに触れる際、他教科での学び⇄英語の活動の相互ベクトルを意識した活動を実践していきたい。

＜評価基準について＞

プレゼンテーションの評価基準については、別紙 PDF ファイル参照。

Country Project の活動を通して、Can-Do List の、Listening1a, Listening1c, Interaction1c, Expression1c, Writing1c で記された力をバランスよく育むことができた。

また、函中コンピテンシーで示されている、

傾聴力（理解力・コミュニケーション能力）、**思考力**（課題処理力・主体的に取り組む力・表現力）、**協働力**（実行力・主体性・協調性）、**先見力**（異文化理解力）の伸長も期待できるといえよう。